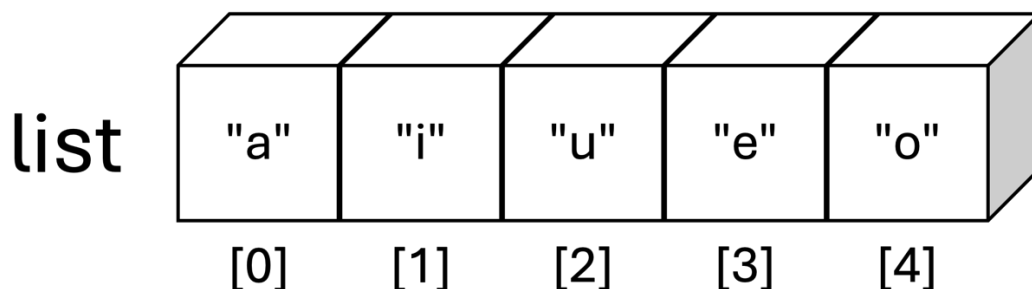


問題集（アシアルテキスト対応） II 変数と配列

配列は、1つの変数に、複数の値を入れておくことができる仕組みです。



```
list = ["a", "i", "u", "e", "o"];
```

のように、四角かっこ `[]` を使います。上の1行は、変数 `list` に、5つの文字1つ1つを要素にした配列を代入しています。

配列の要素に値を代入したり、要素から値を取り出すときには、また四角カッコを使います。

```
document.write( list[2] );
```

とすると、 `u` が表示されます。

JavaScript 言語では、配列の先頭の要素は0番目です。最後の要素は、「要素数-1」です（※上の例では、要素数が5なので、最後の要素は $(5-1)$ で、4番目になります）。

配列の最後に要素を追加したり、途中に挿入したり、要素を削除するには、専用の関数を用います。

※以上は、動作を確認するときに便利な機能の確認です。以下の問題で、必ず使うわけではありません。

以下の問題を解く際は、『JavaScript で学ぶプログラミング入門』第3章 配列 がヒントになります。

※回答にあたり、アシアルが提供する回答用プロジェクトを利用する場合、フォルダ js にあるファイル main.js を用いてください。

1. 変数の値を表示する

以下のような変数 a, i, u, e, o があります。

画面に 3 と表示されるように、関数 document.write() の小カッコの中に変数を入れてください。

```
let a = 0;
let i = 1;
let u = 2;
let e = 3;
let o = 4;
```

2. 配列の値を表示する

以下のような配列 siin (子音)があります。

画面に r と表示されるように、関数 document.write() の小カッコの中に変数を入れてください。

```
let siin = ["k", "s", "t", "n", "h", "m", "y", "r", "w", "g", "z", "d", "j", "b", "p"];
```

3. 配列の値を表示する

複数の文字の値を、 + (足し算)で連結することができます。

document.write()のカッコの中でも、記号+を使って文字をつなげることができます。

```
document.write("例:" + a + i); // 例: 0 1 と表示される
```

配列 siin と、配列 boin (母音)、変数 a, i, u, e, o を用いて、関数 document.write()を使い、自分の名前か、または有名なスポーツ選手などの名前 (例:「池江璃花子 (いけえりかこ。Ikee Rikako)」、「羽生結弦(はにゅうゆづる。Hanyu Yuduru)」) をローマ字で表示してください。